

タイトル「**2022年度危機管理学部(公開)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT4614		
科目名	危機管理特殊研究 4		
担当教員	吉田 正法		
対象学年	4年	開講学期	後期
曜日・時限	水 4		
講義室	1312	単位区分	選必
授業形態	演習	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門統合		
科目小分類	専門統合・演習		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード 学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 D P 1－E 〔学識・専門技能〕専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 D P 4－F 〔探求力・課題解決力〕問を設定し又は論点を特定し、それに対する問・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。 D P 5－J 〔創造的挑戦力・達成力〕コンピテンスの開発を生涯にわたり継続して行うことを、自らの思考及び行動のパターンとするとともに、既存のアイデアを革新的かつ創造的に統合し、リスクをとりながら、結果に結びつけることができる。 D P 6－K 〔表現力・対話力〕文章及び口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。 D P 7－L 〔協働力・牽引力〕集団的に課題解決を行う際に、自己の立場や責任を認識し、互いに集団の連帯を強めることができる。 D P 8－M 〔省察力〕知識と経験とを関連付け学修成果を活用可能な状態に高めるとともに、これを新しく複雑な状況に転移させ課題解決につなげることができる。 ■ C Rコード 学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（CR）との関連 E 1 学識と専門技能（10%） F 1 探究と論拠 又は F 2 課題解決（20%） J 2 創造的思考（10%） K 1 ライティング・コミュニケーション（30%） K 2 オーラル・コミュニケーション（10%） L 1 チームワーク（10%） M 1 統合的・応用的学修（10%）		
教員の実務経験	行政官として国際情勢分析や政策提言の資料作成を指導した経験を踏まえ、各自の研究テーマに関する卒業研究の作成における助言と指導を提供したいと考えています。特に第1回～第4回授業。		
成績ターゲット区分	■成績ターゲット 能力開発の目標ステージとの対応 3 発展期 ～ 4 定着期		
科目概要・キーワード	危機管理に関する専門的な問題解決のために必要な知識やスキルを身に付けるための指導を行います。学生個人のキャリア形成にもつながるよう、学生自身が危機管理に関する具体的な業務、資格などに関する専門的な研究を行い、実務教員が中心となり実践的な指導を行います。危機管理に関する知識や教養を養うだけでなく、危機管理において必須となるコーディネート、マネジメントに必要な調整能力を身に付けることを目標とします。ここでは、各自の研究テーマに基づいたレポートを執筆し、完成させるための論文指導を行います。授業形態は演		

	習形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。 ■キーワード 安全保障、論文レポート執筆	
授業の趣旨	■副題 各自が設定した研究テーマに関する卒業研究を作成します。 ■授業の目的 危機管理に関する専門的な問題を分析してその本質や原因を解明し、適切な解決の方策と手段の方向性を提言するという問題解決に資する報告書類を作成する能力を身につけることを目的とします。 現状の把握・因果関係の特定・対策の提言という政策リサーチのフレームを参照しながら、危機管理特殊研究3で行った研究計画書の策定等の準備を踏まえ、各自の問題意識に応じた射程の卒業研究を完成させ、発表します。 ■授業のポイント 危機管理特殊研究3で作成した研究計画に基づき、中間報告会等を通じて作業の進捗状況を管理しながら研究を進めます。卒業研究にふさわしい品質と分量を備えた報告書を期限内に作成、提出し、発表します。	
総合到達目標	■さまざまな学習の成果を総合して新しく複雑な状況に当てはめる思考と行動の態度を涵養し、課題解決に向けた政策リサーチを実施して報告書にまとめ、発表する技能を修得する。 ・研究計画書に基づいて、進捗状況を管理しながら研究を進めることができる。（第1回～第14回） ・新しく複雑な課題に関する仮説の構築と検証を行い、課題の構造の理解や解決策の案出に有益な含意を引き出すことができる。（第1回～第4回） ・研究の成果をしかるべき品質と分量を備えた書面として締切期限内に完成・提出し、その概要を判り易く発表できる。（第5回～第14回） ・卒業研究の工程管理の経験を内省して、PDCAサイクル、OODAループやデザイン思考などの現代社会で活用されている問題解決のフレームを理解して活用するための素養を形成することができる。（第15回）	
成績評価方法	■レポートの作成・報告・討議（40%）：適用ルーブリック C1・E1・F1・J2・K1・K2・L1・M1 （評価の観点）卒業研究の完成に向けて報告すべきこと（文献の内容、自分の研究内容等）についてのポイントが押さえられているか、分かりやすい報告書か、聞き手に理解できるような口頭での報告できているかどうか等について評価します。 （フィードバックの方法）授業内の中間報告会でフィードバックを行います。 ■卒業研究（60%）：適用ルーブリック C1・E1・F1・J2・K1・K2・L1・M1 （評価の観点）各自が設定したリサーチクエスションに答える上で、①設定した仮説が適当か、②仮説を検証するため検証方法は適当か、③十分な先行研究を踏まえているか、④議論に論理の飛躍・矛盾はないかを評価します。 （フィードバックの方法）授業内の卒業研究報告会でフィードバックを行います。	
履修条件	グローバル領域関連の科目を履修していることが望まれます。	
履修上の注意点	■卒業研究の作成は、提出締切日、作業の現状と今後必要となる作業の分量、自分の作業処理の速度を踏まえて、戦略的かつ計画的に前倒して作業を進めていくことが必要です。自分の作業処理の速度を把握するために授業の開始と同時に作業に取り掛かって下さい、11月末までに第一稿を提出し、教員の指導を踏まえて12月中には修正を終えて、年内に提出可能な状態とすることを目指します。研究計画の発表、卒業研究の中間報告と卒業研究の発表会を含む授業における研究指導等に30時間、授業外での資料の収集整理・分析・執筆等の卒業研究の作成に60時間以上の学習を要します。 ■ポータルサイトを通じて授業に関する資料の事前・事後配布や連絡を行うので、毎週必ずポータルサイトを確認してください。教員から個別の連絡を受けた場合には必ず応答の連絡をしてください。	
授業内容	回	内容
	1	①授業テーマ 仮説の検証（1） ②授業概要 各自のリサーチクエスションに対する仮説の検証方法、仮説の検証過程、仮説の検証結果とそれを踏まえた考察、含意について報告し、全体で討議する。担当者の実務経験を踏まえて指導します。本授業により、自らのリサーチクエスションに対する仮説の検証方法に関する基礎的・応用的なスキルを身に付け、実践することができるようになる。 （C1・E1・F1・J2・K1・K2・L1・M1） この授業では、仮説の検証方法とそれに必要なデータ（文献）のリストを作成し、全体で討議する。

	③予習（180分以上） 各自のリサーチクエストに対する仮説の検証方法について整理し、必要なデータ（文献）のリストを作成し、発表の準備をする。 ④復習（60分以上） 報告に対して教員や他の履修者から受けた指摘をレジюмеに補足する。
2	①授業テーマ 仮説の検証（2） ②授業概要 各自のリサーチクエストに対する仮説の検証方法、仮説の検証過程、仮説の検証結果とそれを踏まえた考察、含意について報告し、全体で討議する。担当者の実務経験を踏まえて指導します。本授業により、自らのリサーチクエストに対する仮説の検証方法に関する基礎的・応用的なスキルを身に付け、実践することができるようになる。 （C1・E1・F1・J2・K1・K2・L1・M1） この授業では、第1講で作成された仮説の検証に必要なデータ（文献）の分析の進捗状況を確認し、全体で討議する。 ③予習（180分以上） 仮説の検証に必要なデータ（文献）を分析し、その概要と意義をとりまとめて報告の準備を整える。 ④復習（60分以上） 報告に対して教員や他の履修者から受けた指摘をレジюмеに補足する。
3	①授業テーマ 仮説の検証（3） ②授業概要 各自のリサーチクエストに対する仮説の検証方法、仮説の検証過程、仮説の検証結果とそれを踏まえた考察、含意について報告し、全体で討議する。担当者の実務経験を踏まえて指導します。本授業により、自らのリサーチクエストに対する仮説の検証方法に関する基礎的・応用的なスキルを身に付け、実践することができるようになる。 （C1・E1・F1・J2・K1・K2・L1・M1） この授業では、第1講で作成された仮説の検証に必要なデータ（文献）の分析の進捗状況を引き続き確認し、全体で討議する。 ③予習（180分以上） 仮説の検証に必要な新たなデータ（文献）を分析した概要とその意義をとりまとめて報告の準備を整える。 ④復習（60分以上） 報告に対して教員や他の履修者から受けた指摘をレジюмеに補足する。
4	①授業テーマ 仮説の検証（4） ②授業概要 各自のリサーチクエストに対する仮説の検証方法、仮説の検証過程、仮説の検証結果とそれを踏まえた考察、含意について報告し、全体で討議する。担当者の実務経験を踏まえて指導します。本授業により、自らのリサーチクエストに対する仮説の検証方法に関する基礎的・応用的なスキルを身に付け、実践することができるようになる。 （C1・E1・F1・J2・K1・K2・L1・M1） この授業では、仮説の検証方法、仮説の検証過程、仮説の検証結果とそれを踏まえた考察、含意について報告し、全体で討議する。 ③予習（180分以上） 各自のリサーチクエストに対する仮説の検証方法、仮説の検証過程、仮説の検証結果について整理し、レジюмеを作成し発表の準備をする。 ④復習（60分以上） 報告に対して教員や他の履修者から受けた指摘をレジюмеに補足する。
5	①授業テーマ 構成案の検討と作成 ②授業概要 各自の研究の意義、内容及び成果をまとめた論文の構成（目次）案及び各章の概要を報告し、全体で討議する。本授業により、自らの研究の意義、内容及び成果を客観的、論理的、説得的に論じるための構成法を修得し、論じることができるようになる。（C1・E1・F1・J2・K1・K2・L1・M1） ③予習（180分以上） マインドマップやワードのアウトライン機能を利用して、各自の研究の意義や内容、成果をまとめた論文の構成（目次案）及び各章の概要についての暫定案を取りまとめて発表できるようにしておく。 ④復習（60分以上）

	報告したレジюмеについて、教員や他の履修者から受けた指摘をレジюмеに補足する。
6	①授業テーマ 中間報告会（１）各自の構成案のとりまとめと発表 ②授業概要 各自の研究の意義、内容及び成果をまとめた論文の構成（目次）案及び各章の概要を報告し、全体で討議する。本授業により、自らの研究の意義、内容及び成果を客観的、論理的、説得的に論じるための構成法を修得し、論じることができるようになる。（C 1・E 1・F 1・J 2・K 1・K 2・L 1・M 1） ③予習（180分以上） 前回の授業での指摘を踏まえて各自の研究の意義や内容、成果をまとめた論文の構成（目次案）及び各章の概要をまとめたレジюмеを作成し、発表の準備を整える。 ④復習（60分以上） 報告したレジюмеについて、教員や他の履修者から受けた指摘をレジюмеに補足する。
7	①授業テーマ 卒業研究初稿の作成（１） ②授業概要 卒業研究初稿を基に、論文内で議論される主な論点の概要を報告し、全体で討議する。本授業により、自らの研究の意義や内容、成果を客観的、論理的、説得的に論じるための論文の構成を身に付け、実際に論じることができるようになる。（C 1・E 1・F 1・J 2・K 1・K 2・L 1・M 1） ③予習（180分以上） 論文内で議論される各章の初稿を用意して、その主な論点の概要を報告できるように準備する。 ④復習（60分以上） 報告での指摘等を踏まえて、初稿を完成させる。
8	①授業テーマ 卒業研究初稿の作成（２） ②授業概要 卒業研究初稿を基に、論文内で議論される主な論点の概要を報告し、全体で討議する。本授業により、自らの研究の意義や内容、成果を客観的、論理的、説得的に論じるための論文の構成を身に付け、実際に論じることができるようになる。（C 1・E 1・F 1・J 2・K 1・K 2・L 1・M 1） ③予習（180分以上） 論文内で議論される各章の初稿を用意して、その主な論点の概要を報告できるように準備する。 ④復習（60分以上） 報告での指摘等を踏まえて、初稿を完成させる。
9	①授業テーマ 卒業研究初稿の作成（３） ②授業概要 卒業研究初稿を基に、論文内で議論される主な論点の概要を報告し、全体で討議する。本授業により、自らの研究の意義や内容、成果を客観的、論理的、説得的に論じるための論文の構成を身に付け、実際に論じることができるようになる。（C 1・E 1・F 1・J 2・K 1・K 2・L 1・M 1） ③予習（180分以上） 論文内で議論される各章の初稿を用意して、その主な論点の概要を報告できるように準備する。 ④復習（60分以上） 報告での指摘等を踏まえて、初稿を完成させる。
10	①授業テーマ 卒業研究の初稿提出と中間報告会（２） ②授業概要 卒業研究の初稿を完成させてその概要をクラスで発表し、全体で討議する。（C 1・E 1・F 1・J 2・K 1・K 2・L 1・M 1） ③予習（180分以上） 卒業研究の第一稿を完成させて提出できる準備を整える。 ④復習（60分以上） ピアレビューや教員の指導を踏まえて、最終稿への原稿修正計画を立案し、始動させる。

	11	①授業テーマ 卒業研究最終稿（案）の作成（１） ②授業概要 卒業原稿最終稿（案）を基に、文章表現や脚注、参考文献、図表等の書式などを確認し、全体で討議する。本授業により、論文で用いるべき文章表現や脚注、参考文献、図表等の書き方に関する基礎的なルールを身に付け、自ら活用することができるようになる。（C 1・E 1・F 1・J 2・K 1・K 2・L 1・M 1） ③予習（180分以上） 卒業原稿最終稿（案）を作成し、確認しておきたい事項を書き出しておく。 ④復習（60分以上） 報告での指摘等を踏まえて、爾後の調整計画を修正し、最終稿の完成に向けた作業を開始する。
	12	①授業テーマ 卒業研究最終稿（案）の作成（２） ②授業概要 卒業原稿最終稿（案）を基に、文章表現や脚注、参考文献、図表等の書式などを確認し、全体で討議する。本授業により、論文で用いるべき文章表現や脚注、参考文献、図表等の書き方に関する基礎的なルールを身に付け、自ら活用することができるようになる。（C 1・E 1・F 1・J 2・K 1・K 2・L 1・M 1） ③予習（180分以上） 卒業原稿最終稿（案）を作成し、確認しておきたい事項を書き出しておく。 ④復習（60分以上） 報告での指摘等を踏まえて、爾後の調整計画を修正し、最終稿の完成に向けた作業を開始する。
	13	①授業テーマ 卒業研究の最終稿の提出 ②授業概要 卒業研究の最終稿を全体で討議する。教員に提出して、点検を受ける。（C 1・E 1・F 1・J 2・K 1・K 2・L 1・M 1） ③予習（120分以上） 卒業研究の最終稿を完成させて提出できる準備を整える。 ④復習（60分以上） 教員の点検を踏まえて提出の準備を行い、研究発表の準備に取り掛かる。
	14	①授業テーマ 卒業研究発表会 ②授業概要 各自の卒業研究の発表を行い、全体で討議する。（C 1・E 1・F 1・J 2・K 1・K 2・L 1・M 1） ③予習（180分以上） 卒業研究の発表を準備する。 ④復習（60分以上） 振り返りの準備を行う。
	15	①授業テーマ 危機管理特殊研究の振り返り ②授業概要 危機管理学部における４年間の学習の振り返りを行い、全体で討議する。（C 1・E 1・F 1・J 2・K 1・K 2・L 1・M 1） ③予習（180分以上） 振り返りの準備を行う。 ④復習（60分以上） 振り返りを振り返る。
関連科目	危機管理基礎演習Ⅱ（RMGT2602）、危機管理特殊研究１（RMGT4611）、危機管理特殊研究２（RMGT4612）、危機管理特殊研究３（RMGT4613）	
教科書	伊藤修一郎『政策リサーチ入門 仮説検証による問題解決の技法』東京大学出版会、2011年、ISBN978-4-13-032215-7	
参考書・参考URL	久米郁男『原因を推論する 政治分析方法論のすゝめ』有斐閣、2013年、ISBN978-4-641-14907-6 高根正昭『創造の方法学』講談社現代新書、1979年、ISBN4-06-145553-2 外山滋比古『思考の整理学』ちくま文庫、1986年、ISBN4-480-02047-0	

連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に告知します。 ■オフィスアワー 開講時に告知します。
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント5%：パブリックセキュリティ10%：グローバルセキュリティ80%：情報セキュリティ5% ■危機管理学と法学とのバランス 危機管理学90%：法学10%

